受講料無料
8月開始

受講生募集

大阪大学大学院文学研究科 主催
文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

徴しの上を鳥が飛ぶII

大阪大学大学院文学研究科は、昨年に引き続き、アート・マネージメント人材育成講座「徴しの上を鳥が飛ぶII—文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」を開催いたします。昨年度同様に人文学の観点を重視した文化芸術の企画運営の方法を学ぶ受講生を募集します。

しかし本年は新型コロナウイルス感染拡大のために、実施プログラムの予定が現時点でも完全には整ってはおりません。今後の状況次第によっては、予定しているプログラムの中止または変更、あるいは多くはオンラインによるリモート実施となることが考えられています。どうかその点をご承知おき下さい。

しかしこのような事態に直面した今年こそ、文化芸術のあり方を根本的に考える良い機会でもあります。例年のように万全な実施は難しいかと思いますが、できる範囲で、感染症とともに生きなくてはならない現代にふさわしい文化芸術を探求できればと思っております。

令和2年度の本プログラムに参加し、文化芸術の企画・運営を学ぶ受講生を募集します。

応募希望の方は以下の＜募集要項＞をご確認の上、＜応募フォーム＞またはE-mailにてご応募ください。

＜募集要項＞

応募資格　次の❶❷の両方を満たす方。＊年間プログラム終了後、修了者には修了証を授与
❶18歳以上。演劇、音楽、美術、パフォーマンスなど芸術全般に興味があり、芸術関連諸機関等に在勤、あるいはこれらの職種への勤務を希望している方、もしくは自身で既に活動を始めており、さらに学びたい方。
❷自宅等において、常時WiFi環境にあるなど、ネットワーク環境が確保できており、オンラインでの受講が可能な方。

定　　員　15名程度
受 講 料　無料
応募締切　2020年7月6日（月）12時（正午）まで
選考方法　書類による選考
選考結果　メールもしくは電話にて応募者全員に通知します。
提出書類
❶**履歴書**　高校卒業以降の学歴と職歴。また特に選考の上で役立つと思うものがあれば、具体的に記入してください。
❷**小論文**　「新型コロナとともに生きる時代の文化芸術について」（400字程度）
応募方法
＜応募フォームにてご応募の方＞ URL：https://shirutori.org/ よりご入力をお願いします。
＜E-mailにてご応募の方＞　提出書類❶❷を添付の上、tyamazaki@let.osaka-u.ac.jp までE-mailにてお送りください。
お問い合わせ
大阪大学文学研究科　アート・プラクシス人材育成プログラム事務局まで、
E-mail（tyamazaki@let.osaka-u.ac.jp）にてお問い合わせください。
※いただいた個人情報は本プログラムのため以外には使用いたしません。

主催：大阪大学大学院文学研究科　〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
共催：大阪大学総合学術博物館
連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館準備室、浄るりシアター、
公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メイシアター）、豊中市都市活力部文化芸術課、
兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
助成：令和2年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

OSAKA UNIVERSITY　文化庁　大学から文化力 POWER OF CULTURE

＜プログラム内容＞

本プログラムでは、演劇、音楽、美術など多岐にわたる芸術の事前・事後双方の扱いを学ぶ「インターウィーヴ」的学習を通して、今日のアート・マネジメント人材に求められる、アートを展開する場や共同体の特性に応じて臨機応変に対応する実践的な「アート・プラクシス」能力を養います。また、アート実践を地域社会に深く根付かせていくために、事後の「ポスト・プロダクション」を実践的に学びます。年度の最後には、作品制作を実施し、アーティストと折衝可能な人材の育成を目指します。

1年を3つの期間に分けてプログラムを実施します

〔第1期〕オープニング・セミナーとアートマネジメントや文化政策についての基礎レクチャーの期間

〔第2期〕アートの事前・事後双方の扱いを学ぶ「インターウィーヴ」的学習の期間

〔第3期〕研修成果を作品制作にて公表する期間で、アーティストとの折衝や制作業務を受講生が担当し、作品を巡ってアーティストとのセッションも行う

第1期　セミナーとレクチャー

活動①

〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉オープニング・セミナー

8月1日（土）〔オンライン〕

アートが社会に成し得る可能性と今日的な意義と問題を学ぶとともに、本事業の理念（「アート・プラクシス」能力のある人材育成と、人文学の研究成果を活かすアートの新たな可能性の探求）を共有します。

活動①

シンポジウム「アート、記憶、政治 --- あいちトリエンナーレから一年に考える」

8月2日（日）〔オンライン〕

象徴的な価値を帯びた表現媒体としての「芸術／アート」は、その成り立ちにおいて政治的な存在です。社会におけるアイデンティティのありようが複雑化する今日、アートのもつ政治性は時に先鋭化し、予期せぬ軋轢にも繋がります。このシンポジウムでは、アートと政治、歴史の記憶をめぐる問題を、昨年の「あいちトリエンナーレ」に参加した小田原のどかさん（彫刻家）ら関係者のご報告を軸に、ディスカッサントに現代美術研究者の池上裕子さん（神戸大学准教授）も迎えて、語り合います。

活動②

〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉連続レクチャー

8月9日（日）、8月23日（日）〔オンライン〕

アート・マネジメント基礎講座として、「アートマネジメントの実際」、「アート研究の現在」、「アートとデザイン」の3カテゴリーについて、ゲスト講師による講演を行います。

ゲスト講師：井原麗奈（静岡大学地域創造学環准教授）、植木啓子（大阪中之島美術館準備室）、川崎陽子（KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 共同ディレクター）、斎藤亜矢（京都造形芸大文明哲学研究所准教授）

第2期　インターウィーヴ

演劇、ダンス、音楽、美術などのアート作品や、アーティストとの対話を通して、3つのテーマ（対立と調停、アイデンティティの揺れ、物語の領分）について学習します。

活動③-1　［対立と調停］

森村泰昌との対話2

調整中

モリムラ＠ミュージアム（M@M）の訪問と森村泰昌本人との対話を通し、現代社会や現代アートにおける問題に向き合っている作家や作品への理解を深めます。また、理解した内容を発信できるアートマネージャーを育成します。

活動③-2　［対立と調停］

バックステージ・セミナー2

12月12日（土）

箏曲の歴史は、単純に日本伝統音楽の歴史であるだけでなく、西洋の音楽語法との「対立と調停」の歴史でもありました。片岡リサの演奏会とその前後の対話によって、音楽を中心にアートを取り巻く現代の実情を学びます。

活動③-3　［対立と調停］

工芸の魅力を伝える

12月5日（土）

陶磁器の貴重なコレクションを有し、工芸美術の意欲的な展示も行う東洋陶磁美術館の展覧会とセッションを通して、美術館の展覧会へのサポートや、来館者への配慮のあり方などについて考察します。

活動④-1　［アイデンティティの揺れ］

現代における芸能の所在

調整中

神楽の実態から、地域の持つ魅力と地域が抱える課題を考察します。本講座を通し、様々な側面から魅力や課題を発見し、解決に向かう方法を学び、自らの経験に寄せて考察することも学習します。

活動④-2　［アイデンティティの揺れ］

アート・リング～アートのエコシステムへのいざない～

10月31日（土）

アートの分野は多方面にわたり、アート従事者にも経済や科学などを含む分野横断的知識と視野は不可欠なものであるため、各分野の有識者が織りなす講座を実施します。

活動④-3　［アイデンティティの揺れ］

水都大阪エコミュージアムプロジェクト

9月12日（土）、11月7日（土）

水際からという乗船による新たな視点から水都大阪を眺め、体感することで、「エコミュージアム」の実際を学びます。また、乗船時のレクチャーなどで、情報を発信する方法を身につけます。

活動⑤-1　［物語の領分］

伝統演劇の現代的表現をめぐって

12月13日（日）

伝統と現代の接点を模索している現代劇団 エイチエムピー・シアターカンパニーの作品に接することで、現代的課題を解決する方法を考えます。演劇そのものが持つ魅力を知るだけでなく、演劇が抱える課題解決の方法論を知ります。

活動⑤-2　［物語の領分］

バックステージ・セミナー1

10月11日（日）

現代の演奏と音楽の最前線についてオルガニスト佐川淳さんから直接話を聞きます。また同志社高校にあるヴァイムス社製のオルガンを題材に、その機構や可能性について演奏家とともに考えることで、音楽を通じた社会との対話の方法について考える素地を養います。

第3期　作品制作

活動⑥

作品制作とセッション

2021年1月・2月

現代社会の課題とアートについて学習した受講生が実際に作品制作業務に携わります。前年度の滞在制作での成果・ソンギウン作『外地の三人姉妹』を振り返るポスト・プロダクションを行います。また、アーティスト（写真家・金森マユ）との交流や対話も経験し、作品制作に携わります。アーティストと交渉をし、一般社会へアート作品を発信できる力を蓄えます。

活動⑦

食のつながりー神山町のフード・ハブ・プロジェクト

11月頃予定

アーティスト・イン・レジデンスを行なっている徳島県の神山町におけるシェフ・イン・レジデンスを視察し、アートと別業種とのコラボレーションやネットワーク構築などについて重点的に学びます。

活動①

〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉クロージング・シンポジウム

2021年3月6日（土）

1年間のまとめとして、レクチャー、鑑賞、ワークショップ、ポスト・プロダクション、上演、作品制作などの様々な芸術体験や実践経験を振り返ります。

※プログラムの日程・内容については、変更、オンライン実施、もしくは中止になる可能性があります。